

2 対策

(1) 目指すべき方向性

- 小児の救急時の対応等、その症状に応じた地域の小児医療が確保される体制を構築します。
- 小児医療、特に新生児医療に携わる医師の勤務環境の改善を進めつつ、医療機関・機能の集約化・重点化を進めます。
- 医療的ケア児を含め、子どもの健康を守るために、家族等を支援する体制を構築します。
- 新興感染症の発生・まん延時や災害時に備えた小児医療体制の充実を図ります。

(2) 数値目標

課題	指標の種別	指標名	圏域	計画策定時	目標値 (令和11年度)
—	アウトカム 指標	乳児死亡率(出生千対)	全圏域	1.4 (令和3年)	1.0以下
—		幼児死亡率(出生千対)	全圏域	0.5 (令和3年)	0.3以下
①	ストラクチャー 指標	災害時小児周産期リエゾン任命者数	全圏域	22人 (令和5年度)	22人
②	プロセス 指標	岐阜県子ども医療電話相談(#8000)の件数	全圏域	10,012件 (令和3年)	11,000件 以上
②		岐阜県子ども医療電話相談(#8000)の応答率	全圏域	53.6% (令和5年4~9月)	80.0%以上
③		小児救急搬送における受入れ困難事例の割合 (受入照会件数4回以上)	全圏域	0.5% (令和3年)	0%
③		小児救急搬送における受入れ困難事例の割合 (現場滞在時間30分以上)	全圏域	0.5% (令和3年)	0%

(3) 今後の施策

- 小児重篤患者に専門的な医療を提供するため、PICU(小児集中治療室)の整備に対し支援を行います。(課題①)
- 医療的ケア児及びその家族を支援するため、医療的ケア児支援センター(岐阜県重症心身障がい在宅支援センターみらい)を中心に、保健・医療・障がい福祉等の多職種の連携を促進します。(課題①)
- 災害時に小児・周産期に関する情報収集や関係機関との調整等を行う「災害時小児周産期リエゾン」の養成及び技能の維持を図るため、養成等研修へ医師等を派遣します。(課題①)